

E026 宝永第一火口の平行岩脈群（静岡県GEO  
DATA（21）：地学散歩（100））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 斎藤, 朗三 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00027805">https://doi.org/10.14945/00027805</a>

## E026 宝永第一火口の平行岩脈群



国土地理院 地理院地図 (電子国土Web)

富士の宮口五合目 (2400m) から宝永山方向へ向い、約 40 分歩くと宝永火口壁に着く。眼前に宝永山の赤岩、眼下に第一火口が広がり、まるで火星にでも行ったような感覚に陥る。第一火口は、1707 年の宝永噴火によって、原地形がえぐり取られた大きなすり鉢状の爆裂火口である。長径は約 1300m で、中央火口の約 780m より 1.7 倍もある。新富士火山最大の爆発的な噴火である。また、その南に第二・第三火口が存在する。第一火口北壁の高いところを見ると、恐竜の背中の骨板のように見える岩脈群が目に入る。マグマがどのようにして岩脈として地上に現れたのか、その様子を

観察することができる。この岩脈群はその圧倒的な姿から、山伏信仰の対象とされたようで「十二薬師」とか「十二神石」と呼ばれている。この名前の通り約 12 本の岩脈が垂直に、その上ほぼ平行に存在する。この岩脈群の走向は N10~15W で、新富士火山の側火山が多く見られる方向とほぼ一致している。

(齋藤朗三)